



米工 MAKERS

米工通信 第51号

令和3年10月4日

鳥取県立米子工業高等学校

今年は、コロナ禍での学校祭をどのように盛り上げていくのか生徒会がぎりぎりまで検討し、記憶に残る米工祭を開催することができました。

力を合わせて大満足！

令和3年度の米工祭実施要項には次の目的が掲げられています。

- (1) チームで設定した目標の達成を目指して取り組む過程で、個人としてチームとして何をなすべきか考え、行動することができるようになる。また、それを成し遂げることで、自己肯定感やチームの一体感を高める。
- (2) 非日常での創作活動に関わることで、企画力・創造性を高める。
- (3) 多くの制約がある中で、どうすればうまくいくのか考え、工夫する力を培う。



コロナ禍で自粛を余儀なくされる中、クラス一丸となって取り組める数少ない行事はとても貴重な時間です。二日間の米工祭をとおして、生徒の取組には「一人がみんなのために、みんなが一人のために行動する」「できることを活かす」姿を見ることができ、感心しました。

文化の部のステージ発表では、羽目を外して他者を不快な気分にするまでもなく、それでいて楽しんでやっている姿は大人だなと感じました。文化の部を終え、3年生が「楽しかったなあ」と言いながら教室へ帰る姿には、充実感があふれていました。

体育の部では私も学年・職員対抗リレーのアンカーで参加しました。バトンを受け取ったときには前の走者にかかなりの差がついていたのですが、前を走る生徒は時々後ろを確認しながら適度な距離を保ちつつ走ってくれ、おかげで大差なくゴールできました。気遣ってくれてありがとう。身体を動かすことが減り、身体が気持ちについて来ませんね。幽体離脱とはこんな感じなののでしょうか？

米工祭を振り返ってみると、自分の出番に応援してもらった掛け声はとても力になったことと思います。その体験を今後の授業や部活動でも活かして、友達が困っているとき、しんどそうにしているときにちょっと声をかけることができれば、きっと友達は「頑張ろう」と思えたり、不安な気持ちが和らいたりすることが想像できると思います。各クラスが3年間を同じメンバーで過ごすのですから、この貴重な時間を振り返って、チームワークをますます高めてください。

米工祭の様々な場面で尽力してくれた生徒会長をはじめ、生徒会執行部の皆さん、そして各クラスの皆さん、米工祭を短期間で素晴らしいものに仕上げてください、本当にありがとうございました。

保護者の皆様にはPTA会報「鵬翔」で二日間の様子が紹介されます。楽しみにお待ちください。さて、学校は10月から後半の半年が始まります。心機一転、みんなで頑張っていきましょう。



校長 松川 明義



米工 MAKERS

米工通信 第52号

令和3年10月6日

鳥取県立米子工業高等学校

生徒部 大本 朋良

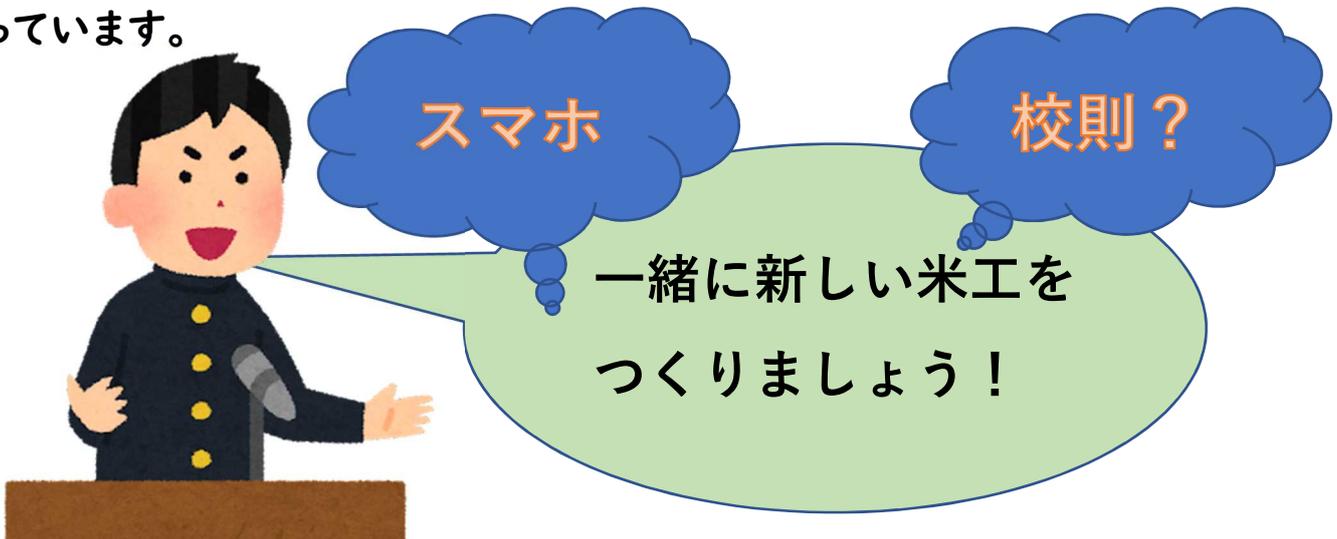
後期生徒会長選挙 立候補届出締め切り

11月8日（月）

9月30日に文化祭、10月1日に体育祭を無事に終えることができました。新型コロナウイルス感染症の流行により規模を縮小しての開催となりました。例年のように模擬店やクラス展示ができませんでしたが、どのクラスも「自分たちにできる事」を一生懸命考えて取り組んだと思います。文化祭の準備を通して、今まで知らなかったクラスメイトの意外な一面を発見したり、自分の新しい一面を発見したりした人もいないでしょうか。

3年生は卒業まであと半年になりました。2月から自由登校期間に入るので、クラスメイトと一緒に学校生活を送ることができるのは 4ヶ月！社会に出るまでの貴重な「高校生活」を大切に過ごして欲しいと思います。今まで米工を引っ張って来た3年生に替わり、これからは1・2年生が米工を引っ張っていく番です。「1・2年生の時代」の到来です。

さあ、日頃から感じている皆さんの疑問や課題を後期生徒会が中心となり、全校生徒で話し合っ改善していきましょう。そして、新しい米工を引っ張って行く「生徒会長」に立候補するのは誰か？立候補の届けをワクワクしながら待っています。





米工 MAKERS

米工通信 第53号
令和3年10月8日
鳥取県立米子工業高等学校

山陰鉄道発祥の地

10月14日は鉄道記念日です。山陰では1902（明治35）年11月、御来屋一境港間でその産声を上げました。

鉄道にとって必要不可欠な整備所はここ米子にその場所を求め、後藤総合車両所は1918（大正7）年、現在地に置かれ今に至ります。ものづくりの街の産声をあげます。

後藤車両所は車両の整備だけではなく、車両を作ることもします。いずれにせよ沢山の部品や材料の調達が必要で、その供給源として米子市の製造業は発展していきました。

米子市は夜見の鉄工団地をはじめとして、ものづくりにかかわる多くの会社があり、それが米子市の経済や生活の基盤を支えているといっても過言ではありません。そして、その製造現場を長年支えているのは米工の卒業生なのです。先輩たちの頑張りが信頼を産み、「後輩（米工生）なら仕事を任せられる」と沢山の求人が来ます。

これからも米工から沢山の優秀な生徒たちを送り、そして「米工魂」を発揮して米子のものづくりを支えてくれることと思います。

最後に、皆さん私を「鉄ちゃん」と勘違いされているようなのですが、多少の知識はあるものの、ごく平凡な一般人であることをここで述べさせていただきます。



在りし日のブルートレイン出雲（2006年撮影 日野川鉄橋）

遠藤郁幸



（いや～やっぱりキハ181系の屋根のラジエターは最高！っていうか鉄ちゃんバレバレ！？）



米工 MAKERS

米工通信 第54号

令和3年10月11日

鳥取県立米子工業高等学校



先週は中学校の初任の先生方、また昨日は中学生の保護者の皆様に来校いただき米工の魅力をお話しさせていただきました。

米工っていいでしょ!

10月7日(木)に中学校の初任の先生方が来校され、米工を会場に初任者研修に取り組みました。中学校の先生方の多くが普通科高校を卒業し、大学では教育学部を卒業されているので、専門高校の学校生活についてはイメージが湧かないことと思います。今回は機械科で旋盤を、情報電子科でマイコン制御を、そして建設科で建築デザインを体験していただきました。見るだけではなく、体験することで工業高校のイメージを得ていただけたのではないのでしょうか。また、多くの先生方が食堂の弁当も注文してくださり、米工の弁当のおいしさも中学生に伝えていただけると期待しています。参加された先生方は、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでずっとオンラインでの研修であり、今回が初めての集合研修でした。ペアで行う作業もあり、参加者同士のコミュニケーションにも役立ったと思います。



10月10日(日)には中学生の保護者の皆様にお越しいただき、各科の説明と見学を行いました。高校の選択は、生涯の生き方に大きく関わりますから、保護者の皆様には関心高く見学していただきました。

米工には様々な魅力があります。その一つに、地元で就職し地元で活躍する卒業生が多いことがあげられます。卒業生が多いということは、職場でも先輩が気にかけてくださったり、かわいがってくださることを想像していただけるとと思います。人と人との心理的距離が縮まる要素の一つに「共通点があること」があげられます。趣味が共通だと仲良くなりやすいのはみなさんも実感されていることでしょう。同様に母校が同じということも親近感を感じ、仲間意識が生まれやすい要素です。

他にも当たり前のことですが100%の就職率です。しかもトヨタ自動車をはじめとする、大学へ進学するとなかなか就職できない企業にも就職しています。また、公務員も土木系については毎年のように採用されています。

ただ、これらはじっとしては実現しません。日々努力して学習し、資格取得、技術習得に励み、部活動でコミュニケーション力を高めるからこそ得られる工業高校での魅力なのです。



ここには書き切れませんが、米工にはもっとたくさんの魅力があります。今回は先生方や保護者の皆様に米工を見ていただきましたが、中学生のみなさんには11月6日(土)に見学会を予定しています。たくさんの魅力を見に来てください。また、次回からの米工MAKERSでは各科の紹介をさせていただきます。ご期待ください。

校長 松川 明義



米工 MAKERS

米工通信 第55号

令和3年10月13日

鳥取県立米子工業高等学校

機械科:西原 正樹

機械科は1923年(大正12年)に開校したときの機械電気科から途中いくつかの変遷を経て続いている学科です。工業高校は産業の礎となる学科で、機械は当時から必要とされていました。



機械科の歴史とこれからの機械科

私は10年前の校舎改築時の引っ越しにも携わっていたので、そのときの様子を思い出すと、当時古いものがたくさん残っていて、電卓の前進である「計算尺」とか、50年以上前の教科書とか、産業の歴史を見ているようで、とても興味深かった覚えがあります。歴史的な産業遺産とも呼べるような機械ともいくつかお別れしました。

高度経済成長期からバブル時代ごろまでの機械といえば、とにかく大型でバリバリと大きな音を立てて加工するのがよい機械という時代でした。時は過ぎ、機械に投入するエネルギーや環境面への配慮から機械は小型・軽量・省エネルギーの流れに移ってきています。自動車もエンジンから電気で動くモータにシフトしつつあります。バブルの時代は自家用車でもバイクでも大排気量のエンジンが良いと評価されていました。でも時代は変わりました。世の中が変われば、作っていくモノも変化するし、使う道具や機械も変化するのです。

NC旋盤という機械があります。コンピュータで旋盤を制御して加工するという機械ですが、それ以前は「ならい旋盤」というのがあったそうです。実物と同じ型を針でなぞることで工具を動かし、製品を加工するという機械です。この機械はNC旋盤の登場とともに消えていきました。このように時代とともに使われる機械は段々と変化していきます。



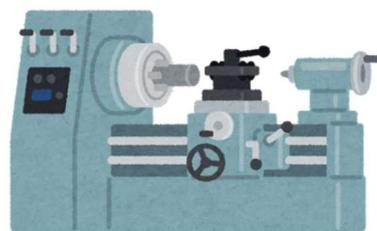
皆さんは工業高校で何を学びますか?機械の使い方ですか?製図の方法ですか?資格取得の勉強ですか?

そういう側面も確かにありますが、それだけではないと思います。そして、社会に出てから高校で学んだことをそのまま生かせる仕事というのは実はそんなに多くありません。今の時代、学校で学んだ新しい知識・技術が陳腐化するのはあつという間です。でも陳腐化しないものもあります。それは基礎・基本だと思えます。

機械科では新しい機械も使いますが、製造現場では見かけることが少なくなってきた汎用機と呼ばれる手動で動かす機械の実習を行っています。「そんな機械は今の製造現場で使わないんじゃないの?」と思う人もいますが、機械科では基礎・基本を大事にしているので、これらの機械の技術を身につけ、将来現場でリーダーシップがとれる技術者を育てていきたいと考えています。

ドッグイヤーとかマウスイヤーという言葉があります。これは科学技術の進歩が従来と比較すれば極めて速いことから作られた言葉ですが、新しい技術が次々と生まれてくる時代においては、それらに対応するために、自ら学ぶ姿勢がないと簡単に置いていかれていってしまうでしょう。そして、学びを深めるためにはそのベースとなる基礎・基本がとても大切です。

例えば、『旋盤で指定された図面どおりに部品ができたのでよかった。』というのではなく、さらによくするにはどうすればいいのか。工程を見直してさらに工夫する、使っている道具を変えてみるなど、よりよくするためにできることは無数にあります。さらに上を目指すという意識と工夫こそが、これからの時代を生き抜くキーワードになるような気がします。



ものづくりの現場では30年以上前からコンピュータによる自動化の流れはありますが、今後、AIの活用が進むと皆さんが将来就職しようと考えているような職種はなくなってしまうのでしょうか?工場における単純労働のような仕事はなくなっていくという予測が出ています。ではどうしたらよいのでしょうか。単純労働ではなく、高い付加価値を持った仕事をするのが大事なのだと思います。与えられたプログラムを動かすためにボタンを押すだけの従業員はこれから徐々に不要になっていくでしょう。そしてプログラムをつくるのも、もはや特別な人が行う時代でもなくなりました。基礎・基本を身につけたうえで、業務を改善するために新たな提案を行い、新しい価値や製品を創造していくのはどうでしょうか? Society5.0という新たな社会の到来に向けて、出来上がったサービスを利用するだけの人ではなく、それらを活用して新たな価値を創造する立場の人になって欲しいというのが私の願いです。

米工は来年100周年を迎えます。温故知新という言葉がありますが、機械科では新しい技術を学ぶだけでなく、古くからある基礎・基本を大事にした学習に取り組んでいます。古いものと新しいもの両方のいいところを生かしていけるといいなと思っています。